

昭和四十年年度

その頃の柔道部

安藤 洋志

この年は、学生柔道界の名門慶応柔道部が、全日本学生大会への三年振りの出場と、早慶戦での四連敗の雪辱を果すべく、全員一丸となって精進努力した年でした。部員は約九〇名程で、入試難等から傑出した選手はいませんでした。他校との合同稽古や練習試合等によって実力の向上を図り、目標達成の為に邁進しました。

それでは時間の経過に従って想い出深いトピックスを綴ってゆきたいと思えます。

日吉の合宿所もできて二年目、山崎・大館両監督と、南舎監の御指導の下に一年間を過ごしました。合宿所には常時二〇名程が寝泊りして、毎朝七時起床で軽い体操と、二km程のランニングをしていました。暖かな頃になると中庭に出て、きそってパーペルをあげたりベンチプレスで腕力をつけていました。当時の管理人のおばさんは和田さんで、木曜の夜になるとカレライスが出たのを懐しく思い出されます。又、この年の一月には学費値上げの反対闘争があり、合宿所で夜遅くまで議論をしたりしましたが、不穏な動きがあるということで、当時の体育会理事の石川先生には随分心配をおかけしたものでした。尚、この年は塾の体育会委員長に片桐君、東京学生柔道連盟の委員長に田島君が、部の代表としてそれぞれ活躍しました。

春合宿終了後、学内での勧誘で後に活躍した川上君や芳賀君ら約十数名の新人が外部から入部しました。特に高原

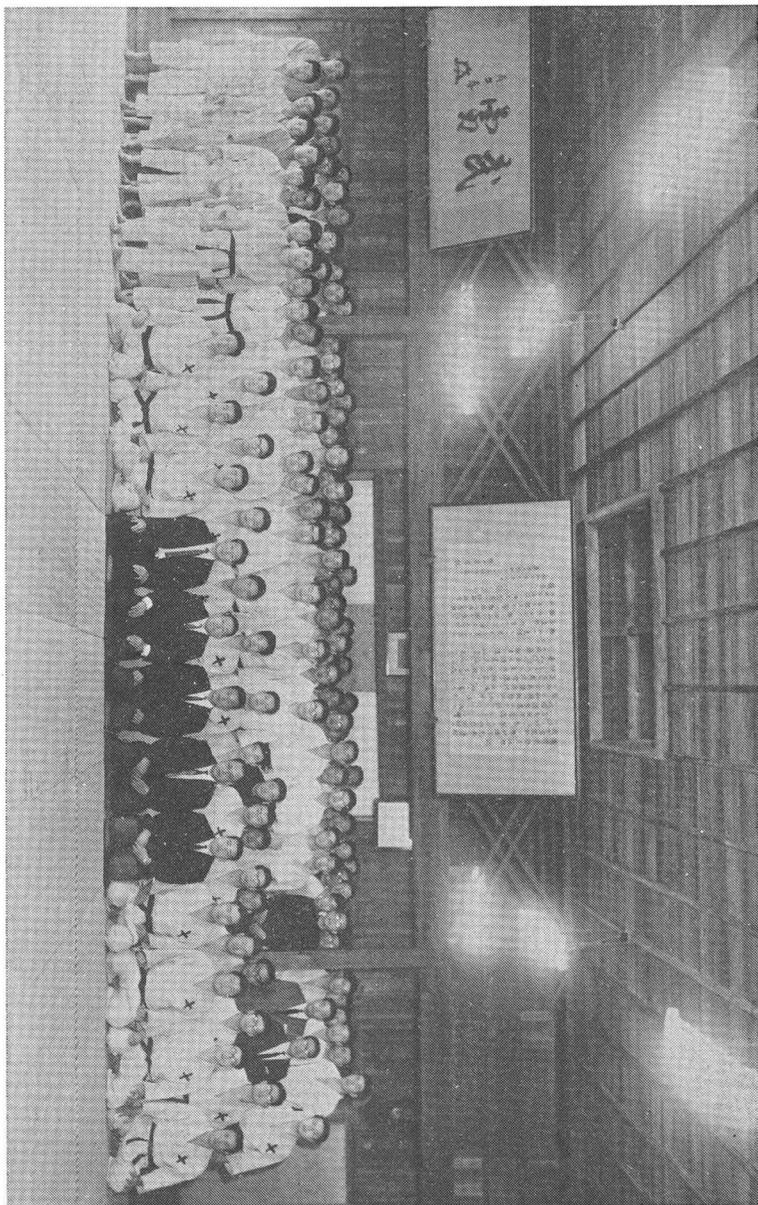
君は百三十キロを軽く越える体重で我々を驚かせました。そして四月には防衛大・神奈川県警との練習試合にも勝ち、第一目標である東京学生対抗戦に臨みました。試合は三回戦で明治に敗れましたが、野田君はのちの全日本チャンピオン篠巻君と引分けました。敗者復活戦では、全日本の出場権をかけて力をつけてきた新興の青山学院と対戦し、九引分けの後代表戦の三人目で惜敗しました。特に副将で出た西村君の脛腰が廻り過ぎて技有りにならず、引分けの判定になったのが残念でした。

夏の遠征は約四〇名で東北五県を廻り、各県の選抜チームと対戦しました。戦績は四勝二敗でしたが、敗れた試合も一・二点の僅差でした。尚、仙台では二年振りに対戦した東北学院に、試合後ビアガーデンに招待され友好を深めました。青森で解散後、十和田湖周辺で一・二泊して清水先生と雀卓を囲んだりしたのを懐しく想い出されます。又、その後合宿所にバスガイドから手紙がきたりして暫く話題になったりもしました。

尚、この夏には中等部が長野県に、慶応高校が東海四県に遠征合宿を行いました。又、大学生は横浜港で一週間の沖仲仕のアルバイトをして、部の活動資金の足しにしました。

いよいよ早慶戦を目指し、法政・日大・日体大等と出稽古や練習試合を重ね、特に全日本学生選手権優勝校の拓大とは、敗れましたが一人差という善戦で、早慶戦への自信を深めました。

十月十七日、一年間の精進努力の目標であった早慶戦に必勝を期して臨みました。試合は前半戦で二・三人リードする作戦でしたが、残念ながら予想以上の五人差で敗れました。数日前の右腕脱臼をおして出場の大竹君や西村君の活躍があり、中堅過ぎまで対応できましたが、後半でやや実力の差が出て徐々に差をつけられる結果となりました。又、一勝一引分けの井上君も、二人目の試合で場外で四・五回投げられた為いろいろな言われましたが、彼の根性は立派だったと思います。



昭和四十年卒業生送別記念

結局、一年間の二大目標共達成出来ず残念な結果となりました。今、振り返って反省してみると、平素の鍛練によって培かれる基礎体力と自信にやや欠けていたことが、ここ一番の勝負に実力が発揮出来なかった理由ではないかと思われます。特に格闘技においては、火事場の馬鹿力ではありませんが、精神的なもの、即ち自信のあるなしが勝敗を大きく左右すると思えます。しかし、部生活を通じて得た体験と友情は、将来の人間形成に必ず役立っていると確信しております。

全米柔道選手権大会出場記

友 田 義 輔

昭和三十八年三月に行なわれた全慶応チームによるアメリカ遠征で訪米したときの縁でアイダホ州コールドウエルのアイダホ大学に留学中だった私は、A・A・U（米体協）主催の一九六五年度全米柔道選手権大会に出場する機会を得ることが出来ました。せっかくのチャンスなので塾柔道部で普通部以来やって来た柔道であればみたいというごく軽い気持ちで参加を申し込んだわけですが、米国に来てから半年もの間十分な稽古はやっていない上に、この前年の大会で当時イリノイ州に留学中の植村剛太郎・健次郎両先輩が大活躍されアメリカ遠征以来の塾柔道部の名はますます高まっていますのでこれを傷つけるような結果にはしたくないという緊張した気持ちを持ったことも事実でした。

出場を申し込んでから大会までの約一カ月の間は適当な稽古相手もないまま毎日マラソンや一人でぶつかり稽古をすることを続けて試合に臨みました。

丁度この大会の時期に、サンノゼ大学の内田氏を中心とする中部沿岸有段者会の招聘で清水先生が米国に滞在され

ており、サンフランシスコでなつかしいお顔を拝していよいよファイトがわいて来たことを思い出します。又、塾茶道部OBの大矢忠史先輩・本重栄一先輩・清水英範先輩・鈴木正慶君・細井秀夫君・仙石通泰君の顔もみえ思いがけない激励をもらったことも感激でした。

大会は四月二十三・二十四日の両日にわたり、サンフランシスコ大学体育館で開催され、会場には嘉納講道館長・小谷九段・醍醐七段等日本からの米賓を迎えて米国全土から集まった約三〇〇名の選手が参加して行なわれました。

この大会は個人戦で体重別に一三五ポンド未満・一五〇ポンド未満・一六五ポンド未満・一八〇ポンド未満・二〇〇ポンド未満・無差別の六つの階級に分れて減点法によるトーナメント試合を採用しております。これは、各選手が自分の特点を持ち試合を始め一本負をすると失点5・優勢負をすると失点3・優勢勝をすると失点1・一本勝は失点0の勘定でトーナメント戦をすすめ特点が0点になった者が失格するという方法で一見合理的なようですが、試合数が多くなってしまうそのため各クラスの優勝者が決まったのは大会二日目の夜になってからという具合でした。

私は一八〇ポンド未満のクラスに出場しましたが、幸い一回戦から決勝戦までの九試合までの九試合は全部を一試合10秒程の所要時間で勝ち進み無事優勝することができました。

各クラスの選手権者が出そろった後グラランドチャンピオンの決定戦が行なわれました。

これは重量3階級の選手権者・軽量3階級の選手権者が各々総当りの試合をしてさらに両グループの勝者同志が最後にぶつかってグラランドチャンピオンを決めるという方法をとっており、私のグループでは無差別級に在米の石川隆彦八段の愛弟子のディック・ウォルターズ四段二〇〇ポンド級に明治大学卒の大林四段が相手と決まりました。

ウォルターズ四段が右大外刈技有りの優勢勝で大林四段を降した後、大林四段と対戦した私は終了間際一寸の油断をつかれて右支釣込足で一本を取られ敗れました。その後に行なわれた試合で私はウォルターズ四段と対戦左内股で

一本を取ったため、いわゆる三すくみの状態になりましたが結局一本勝と優勢負けの大林四段が重量グループの代表となり軽量グループの代表の西岡四段と対戦しました。結果はロサンゼルス代表の日系三世の西岡四段がわずかな差で大林四段を降しグラントチャンピオンを獲得しました。

かくしてせっかくのチャンスを自分からつぶしてしまい不本意な成績と残念な思いを残した全米選手権大会でしたが、米留学中の私の一つの思い出としてここに報告させていただきます。

普通部 菅原 以下十四名

日吉高校 森 以下三十一名

志木高校 岡田 以下十三名

大 学 塚田 以下五十八名

先 輩 井上、石渡、大館、広瀬、頭山、

鈴木、渡辺、阿部(大)、橋本、豊永、南、

津隈、中村、山口、大熊、堤、阿部(智)、

杉浦、大島、森田、永田、西島

卒業生送別試合

二月二十一日 於 綱町道場

幼稚舎生から大学生まで多勢集まり、卒業生二十四名を送る送別試合を盛大に行なった。元気一杯なごやかなうちにも熱のこもった試合が展開されたが、結果は大学生の中盤手前で終わった。終了後場所を移して、大学生による送別会が催された。

体育会功労賞選手受賞者

功労賞 塚田正昭、辰野幸正、稲田 励、野口和志、

峰岸保夫、清水正敬、片岡 滋

選手賞 高橋彦二郎、竹内 皓、鈴木忠和、佐藤武男、

金丸忠雄、城 秀男、辻岡伸高、本山 靖、
石川莞二、大滝亮太郎、勝本杉雄、長戸和夫、
佐藤 忠、福田泰資、斉藤良平、小島庸三、
門野倬也

第四回東京関東学生柔道体重別選手権大会

四月十八日(日) 於 講道館

△軽量級▽

一回戦

○望月克己 不戦勝

○青木鶴佳 不戦勝

二回戦

望月 引分(両者失格) 本間(東洋大)
青木 引分(両者失格) 東(日体大)

△中量級▽

一回戦

○萩巢賢二 不戦勝

○若菜武夫 内股返 轟(千葉大)

二回戦

○萩巢 優勝

○若菜 優劣 池田(防大)
袈裟固 菅田(学習院)

三回戦

○萩巢 横四方 渡辺(千葉大)

四回戦

若菜

内股

○榎本(順天堂大)

荻葉

内股

○中村(日大)

△重量級▽

一回戦

○安藤 洋志

大外刈

田中(神奈川大)

○中村 征人

内股

吉岡(農大)

二回戦

○安藤

不戦勝

○中村

関節技

志村(千葉大)

三回戦

安藤

優勢

○田中(中大)

中村

優勢

○守谷(国学院大)

全員合宿の疲れを見せずに元気に試合に臨んだ。そのため緒戦はなかなかの好調で興味を増した。しかし、上に進むにつれて、だんだん気迫に欠けてしまいが敗退する原因となった。塾の実力からいえばもっと上に進んでも良かった試合であった。

日吉高校対国学院久我山高校対抗試合

四月十六日(金)於 久我山高校道場

日吉高校 8 — 6 久我山高校

先鋒○小林 俊介

袈裟固

宮川

依田庄司 内股 ○井上
塚本広道 足弘 ○丸山
植草彰 大外刈 鈴木
○岸勇二 体落 宮沢
○山文治 内股 小川
○緒方慶三 大外返 品川
熊谷喜隆 引分 山岸
砂金健一 引分 小林
○山本隆 優勢 武山
鈴木重安 優勢 ○佐久間
小林寛 内股返 ○太田
鈴木重利 合技 ○竹内
○石戸康雄 優勢 苅部
田口澄夫 引分 割田
渡辺和男 引分 広田
後藤雅洋 膝車 ○中野
加藤雅陽 優勢 田村
副将 松葉直彦 引分 小池
大将 宮本圭一 引分 片岡

相手校はすべて有段者であったが、こちらの無段者は対等又はそれ以上に良く戦った。上位の者も良く健闘して、日頃の練習の成果が出ていたと思うが、勝点が少なかったのは残念である。

日吉高校対保善高校対抗試合

四月十七日(土) 於 日吉道場

日吉高校 15 — 3 保善高校

先鋒	小林 俊介	袈裟固	二山
○植	田 庄 司	横四方	高 橋
岸	勇 彰	大内刈	竹 田
○山	田 文 治	内 股	山 上
○緒	方 慶 三	合 技	田 山 口
○熊	谷 喜 隆	大内刈	新 井
○砂	金 健 一	体 落	吉 田
○鈴	木 重 利	合 技	秋 元
○小	林 寬	袈裟固	原 田
山	本 隆	背負投	○金 子
○野	島 豊 一 郎	合 技	田 中
○渡	辺 和 男	払 腰	佐 藤
○田	口 澄 夫	袈裟固	石 田
○後	藤 雅 洋	内 股	北 島
○加	藤 陽	崩上四方	小 沼
副将	○松 葉 直 彦	袈裟固	鈴 木
大将	宮 本 圭 一	大外刈	○市 川

十五対三の圧勝であったが、特にこの試合は引分けがなかつたのが良かった。

本塾対防衛大学対抗試合

四月二十四日(土) 於 日吉道場

本 塾 17 — 1 防衛大学

先鋒	○不明	払 腰	加 藤
○	"	内 股	永 野
○	"	崩袈裟	伊 藤
○	"	払 卷	德 田
○朝	倉 秀 樹	優 勢	保 本
○長	谷 川 孝	内 股	高 橋
大竹	高	大外巻込	○寺 村
○井	上 雅 行	大外刈	洗 崎
○西	村 和 悦	引 分	池 宮
○飯	田 祥 次	横四方	石 川
○森	田 総 典	優 勢	永 倉
○野	田 侃 生	引 分	石 岡
○若	菜 武 夫	引 分	佐 山
○金	子 賢 二	十字固	伊 舟
○中	村 征 人	優 勢	小 柳
副将	荻 巢 賢 二	引 分	松 隈
大将	庄 司 利 昭	引 分	今 泉

強化合宿の成果が試合に良く発揮され、防衛大学を全

く寄せつけず圧勝した。来るべき東京大会への希望を大とする試合であった。

本塾対神奈川県警・横浜税関・

関東学院選抜連合軍対抗試合

四月二十七日(火)於 神奈川県立武道館

本塾 7 — 6 連合軍

先鋒	望月克己	横四方	小倉
稲石謙一	大外刈	村上	
不明	跳腰	村田	
小杉寛治	引分	清水	
森田総典	引分	金子	
沢地一憲	優勢	千代川	
長谷川孝	優勢	三橋	
朝倉秀樹	引分	西口	
井上雅行	優勢	菅谷	
堀信孝	合技	加藤	
手島秀士郎	内股	永島	
飯田祥次	大内返	小谷田	
西村和悦	合技	谷	
中村征人	内股	大沢	

金子賢二 優勢 ○西田
野田侃生 引分 高橋
萩巢賢二 引分 友岡
副将 庄司利昭 引分 榎屋
大将 安藤洋志 引分 菅沢
県警、税関、関学の連合チームに本塾は非常に元気あ
る試合を見せ、実力を充分に発揮し、試合内容の充実し
た好試合を展開した。

春季大会

五月三日 於 綱町道場

春季大会は幼稚舎の白帯から大学の初段までの選手が
紅白にわかれ二試合場で熱戦が繰りひろげられた。
第一試合場

先鋒	阿部	合技	山崎
阿部	合技	高木	
田中	袈裟固	高木	
成毛	袈裟固	高木	
成毛	袈裟固	高木	
上野	合技	猪野	
上野	引分	秋元	
手塚	引分	今川	
	引分	広田	

金杉 浩 崩上四方 ○秀野
 森藤 平八郎 引分 秀野
 朝倉 秀樹 大内返 副将○畠中
 沢地 憲一 引分 畠中
 大竹 高 引分 大将 岡安
 西村 和悦 不戦
 中村 征人 不戦
 副将 若菜 武夫 不戦
 大将 庄司 利昭 不戦

実力に勝る本塾は前半一年生の活躍によって大差をつけ最後までその差を守り、大将以下四人を残して東京大学に楽勝した。

第十三回関東高等学校柔道大会神奈川県予選

五月二十三日(日) 於 県立武道館

一回戦シード

二回戦

日吉高校A	5	—	0	横浜高校B
先鋒○米山		背負投		白井
○古屋 敏郎		大外刈		鈴木
○宮本 圭一		横四方		谷川
副将○加藤 陽		関節技		高野
大将○松葉 直彦		袈裟固		大久保

三回戦

日吉高校A	4	—	0	茅ヶ崎高校
先鋒○米山		横四方		福原
古屋		引分		中馬
○宮本		袈裟固		太田
副将○加藤		関節技		五十嵐
大将○松葉		袈裟固		藤沢

四回戦

日吉高校A	2	—	1	桜丘高校
先鋒 米山		引分		渋谷
古屋		内股		○山本
○宮本		優勢		小菅
副将○加藤		大外刈		小林
大将 松葉		引分		市原

五回戦

日吉高校A	1	—	1	逗子開成高校
先鋒 米山		大外刈		○千品
新 稲田		引分		渡辺
宮本		引分		山口
副将○加藤		大外刈		須藤
大将 松葉		引分		川口

代表戦

敗者復活戦

日吉高校A

先鋒 ○米山

稲田

宮本

副将 加藤

大将 松葉

1 | 2

優勢

優勢

引分

崩上四方

引分

南高校

若木

○齊藤

神谷

○齊藤

浅野

優勢

引分

引分

○千品

須藤

一回戦

日吉高校B

先鋒 ○田口澄夫

鈴木重利

○後藤雅洋

副将 ○渡辺和男

大将 ○鈴木重安

4 | 1

大内刈

優勢

内股

合技

横四方

平工業高校

山田

○伊藤

猪俣

内田

小原

三回戦

日吉高校B

先鋒

田口

1 | 3

引分

優勢

横浜高校A

山本

○中村

○後藤

副将 渡辺

大将 鈴木

内股

内股

体落

加藤

○村上

○井上

A・B両チームの健闘むなしく、今年度は関東大会出場
場の機会を失なった。選手の精神的疲労やファイアの欠
失、又、選手以外の者達の選手に対する心づかいの不足
などの集積が今大会の結果として出た。もう一步とい
うところであった。

本塾対立教大学対抗試合

五月二十九日(土)於 日吉道場

本塾 4 | 4

先鋒 堀 信孝 引分

井上 雅行 体落

橋田 紘一 合技

○西村和悦 優勢

○大竹 高 内股

○中村 征人 優勢

○荻 巢 賢二 一本背負

○金 子 賢二 内股

○沢 地 憲一 引分

朝倉 秀樹 優勢

立教大学

和田

○小島

○黒川

小幡

○岡田

伊藤

○山本

○西

塚越

○倉泉

若菜武夫 引分 淵辺
 副将 庄司利昭 引分 宮本
 大将 安藤洋志 引分 小松

実力に勝る本塾も立教の善戦にあつてその実力を出し切れず4-4の引分けに終つた。本塾に於ては大竹、萩巢の技の切れが目立っていた。

本塾 5 — 2 立教大学

先鋒 福井勝也 弘腰 ○高橋
 ○平川道隆 優勢 和田
 行本公二 優勢 ○塩野
 ○松森弘素 内股 加藤
 ○芳賀孝穂 優勢 安岡
 稲石謙一 引分 黒川
 ○関郁夫 内股透 小島
 田中明男 引分 大和田
 金杉浩 引分 山口
 副将 大竹高 引分 塚越
 大将 ○飯田祥次 横四方 倉泉

一、二年だけの試合であつたが本塾はその持てる力を充分に發揮し立教に5-2と大勝した。中でも関の試合運びのうまさ、飯田の堅実さが目立っていた。

日吉高校対芝高校対抗試合

六月九日(水)於 網町道場

日吉高校 5 — 5 芝高校

先鋒 水谷直矢 引分 高橋
 ○菊一進 袈裟固 斉藤
 藤原芳隆 合技 ○山岡
 菅原茂太 引分 笠松
 山口 合技 ○山本
 小林俊介 背負投 ○多田
 塚本広道 引分 高木
 小林寛 内股 ○早川
 山田文治 引分 玉井
 渡辺和男 合技 ○山崎(憲)
 ○古屋敏郎 弘腰 ○山崎(英)
 ○米山 合技 高野
 ○後藤雅洋 内股 市川
 副将 ○加藤直彦 引分 宮入
 松葉直彦 優勢 堀内
 大将 宮本圭一 引分 加藤

五対五で引分けたが、内容ではこちらの負けである。特に一年は試合慣れしていなかったので気合負けしていた。二年はもう少し頑張りが必要である。三年の上位の

大将◎宮本圭一 優勢 関口
三年の上位の者の成績は大へん良かった。一年も良く
頑張っていたが、二年の者は今回も不振であった。

第十五回神奈川県高等学校柔道大会
(全国大会予選)

六月二十日(日)於 日大藤沢高校体育館

△軽量級▽

一回戦

野島 優勢 ◎遠山(鎌学)
田口澄夫 引分 下山(日藤)

二回戦

◎野島 不戦勝 高山(三浦)
◎田口 不戦勝 新井(横須賀)

三回戦

野島 返技 ◎鈴木(浜商工)
田口 絞技 ◎清水(南)

△中量級▽

一回戦

◎松葉直彦 袈裟固 佐藤(鎌学)
◎後藤雅洋 大内刈 宮本(相原)

二回戦

◎松葉 袈裟固 志沢(平商)
◎後藤 不戦勝 小松(向工)

三回戦

◎松葉 優勢 飯島(新城)
◎後藤 合技 加藤(横浜)

四回戦

◎松葉 袈裟固 福田(希望丘)
◎後藤 優勢 成井(泰野)

決勝トーナメント

一回戦

松葉 シード 宮台(中農)
◎後藤

二回戦

◎松葉 引分抽選勝 諏訪(藤沢)
◎後藤 引分抽選負 ◎秋山(平商)

三回戦

◎松葉 合技 清水(相原)

準決勝

松葉 優勢 ◎井上(日藤)
◎宮本圭一 優勢 飯泉(法二)

△重量級▽

二回戦 加藤 陽 引分 鈴木(相洋)

三回戦 宮本 引分 岸(中農)
加藤 肩固 ○桑島(泰野)

宮本 横四方 ○小島(鎌学)

松葉は準決勝までいって惜しいことをした。中量級は両者共、良く健闘していたが、軽量級と重量級は共に不振であった。

第十五回神奈川県高等学校柔道大会 (全国大会予選団体戦)

六月二十七日(日)於 日大藤沢高校体育館

一回戦

日吉高校 2 — 1 相模原高校

先鋒 米山 引分 清水
宮本 圭一 引分 菊池
副将 ○松葉 直彦 優勢 宮本
加藤 陽 内股 ○遠藤
大将 ○稲田 新 袈裟固 吉井

二回戦

日吉高校 2 — 1 小田原高校

先鋒 ○米山 小内刈 大竹
宮本 出尾弘 ○尾島
松葉 引分 小沢
副将 ○加藤 袈裟固 小峯
大将 稲田 引分 関野

一回戦

日吉高校 2 — 1 相洋高校

先鋒 ○米山 小内刈 大井
○宮本 優勢 新井
副将 松葉 関節技 ○鈴木
加藤 引分 佐藤
大将 後藤 雅洋 引分 三好

二回戦

日吉高校 1 — 3 鎌倉学園

先鋒 ○米山 合技 佐藤
宮本 引分 熊田
古屋 敏郎 袈裟固 ○一戸
副将 加藤 背負投 ○栖原
大将 後藤 袈裟固 ○小島

相洋との試合で松葉が肘の関節を痛めたのが残念であ

った。全体の試合を見て大差をつけて勝ったというのがなかった。一般に低調な試合であり、気迫に欠けていた。

東海・中部遠征（日吉・志木高校）

日吉・志木両高校は七月二十二日から七月二十六日まで中部東海地方に初めての遠征をした。一行は大垣、名古屋、四日市、浜松、静岡とまわり、各地で対抗試合を行ない以下のような成績を取めた。

またこの夏には、中等部も長野松本遠征を行ない、我が柔道部始って以来大学から中学まで遠征を実施する結果となりそれぞれ成果を取ることが出来た。

対・大垣市内高校選抜チーム

七月二十二日（木）

日吉・志木高校	15	—	2	選抜チーム
先鋒 鈴木重安	引分			高木
山本隆	引分			小粥
羽鳥順	引分			関谷
砂金健一	背負投			○木村
○関谷	優勢			小倉
山田文治	引分			定崎

○小林寛	優勢	大橋
○石戸雄	大外刈	小谷
○鈴木重利	優勢	今津
○豊田隆志	横四方	松永
○渡辺和男	優勢	安田
○田口澄夫	崩袈裟	○早野
奥田次郎	袈裟固	木村
○後藤雅洋	絞技	高木
○加藤陽	合技	木村
○古屋敏郎	大内刈	小谷
○稲田新	横四方	今津
○岡田昂	大外刈	松永
○松葉直彦	袈裟固	安田
副将○宮本圭一	袈裟固	木村
大将○中村晃三	袈裟固	早野

対・名古屋市東海高校

七月二十三日（金）於 愛知県スポーツ会館柔道場

日吉・志木高校	2	—	12	東海高校
先鋒 羽鳥	合技			○稲波
関谷	崩袈裟			○加藤
鈴木（利）	引分			竹本
奥田	引分			鰐部

先鋒○鈴木(安)	日吉・志木高校	7	1	9	於	四日市高校道場
羽鳥	○山本	大外刈	神山	板倉	○佐藤	
背負投	送袴技					
副將	宮本	合技	○濱本	○荒井	○樋田	○石井
中村	合技	○小出	○大谷	○石井	久米	崩裂
渡辺	合技	○濱本	○大谷	久米	三宅	引分
岡田	優勢	○荒井	○大谷	久米	横地	引分
砂金	支釣込足	○樋田	○大谷	久米	深田	合技
石戸	崩裂	○石井	○大谷	久米	吉村	引分
稲田	引分	○石井	○大谷	久米	猪飼	優勢
田口	引分	○石井	○大谷	久米	平松	優勢
加藤	引分	○石井	○大谷	久米	○榎田	背負投
小林	合技	○石井	○大谷	久米	市川	優勢
豊田	引分	○石井	○大谷	久米	○市川	優勢
○鈴木(安)	優勢	○石井	○大谷	久米	○市川	優勢
後藤	優勢	○石井	○大谷	久米	○市川	優勢
山田	背負投	○石井	○大谷	久米	○市川	優勢
古屋	優勢	○石井	○大谷	久米	○市川	優勢

先鋒○鈴木(安)	日吉・志木高校	14	1	3	於	養神館
坂本	○山本	大外刈	○山本	○寺本	○寺本	
副將	宮本	合技	○山本	○寺本	○寺本	
中村	合技	○山本	○寺本	○寺本	○寺本	
岡田	優勢	○山本	○寺本	○寺本	○寺本	
稲田	大外刈	○山本	○寺本	○寺本	○寺本	
加藤	優勢	○山本	○寺本	○寺本	○寺本	
後藤	優勢	○山本	○寺本	○寺本	○寺本	
○松葉	崩裂	○山本	○寺本	○寺本	○寺本	
奥田	優勢	○山本	○寺本	○寺本	○寺本	
田口	上四方	○山本	○寺本	○寺本	○寺本	
古屋	引分	○山本	○寺本	○寺本	○寺本	
渡辺	引分	○山本	○寺本	○寺本	○寺本	
豊田	優勢	○山本	○寺本	○寺本	○寺本	
鈴木(利)	合技	○山本	○寺本	○寺本	○寺本	
石戸	合技	○山本	○寺本	○寺本	○寺本	
小林	引分	○山本	○寺本	○寺本	○寺本	
山田	引分	○山本	○寺本	○寺本	○寺本	
関谷	大外刈	○山本	○寺本	○寺本	○寺本	
○砂金	優勢	○山本	○寺本	○寺本	○寺本	

日吉・志木高校	11	—	5	静岡商業													
対・静岡市内高校選抜チーム																	
七月二十六日(月)	於 静岡商業高校道場																
大将 ○中村	副将 ⊖宮本	○稲田	○加藤	○古屋	○岡田	○松葉	○後藤	○田口	○石戸	渡辺	鈴木(利)	小林	○奥田	○山田	○羽島	山本	関谷
袈裟固	優勢	合技	合技	大外刈	合技	袈裟固	崩袈裟	袈裟固	崩袈裟	引分	優勢	引分	袈裟固	袈裟固	引分	袈裟固	崩上四方
吉田	富田	上村	西村	鈴木(政)	神谷	中村(幹)	高柳(広)	太田	間瀬	岡田	⊖矢野	大澄	笹野	武田	高林	桜井	○大野木

先鋒 鈴木(安)	3	—	6	静岡選抜チーム															
日吉・志木高校	深沢																		
大将 宮本	副将 中村	○稲田	○加藤	○古屋	○岡田	○松葉	○後藤	○田口	○石戸	渡辺	鈴木(利)	小林	⊖奥田	○山田	○羽島	山本	関谷	先鋒 ○鈴木(安)	
引分	引分	引分	大内刈	絞技	跳腰	崩袈裟	跳腰	崩袈裟	袈裟固	背負投	関節技	優勢	優勢	崩袈裟	引分	合技	背負投	合技	足払
高田	松永	海野	小長谷	内藤	相川	黒田	市川	望月(勇)	青木(仁)	○中田	○大原	⊖大石	大村	柳生	簿根	季高	○山田	○萩原	村本

副将 野田侃生 引分 木村(4)
 大将 ○安藤洋志 出足弘 渡部(4)
 遠征第一戦にて、全員闘志を見せ良く戦い第一戦を大
 勝で飾ることができた。

対・全宮城県

八月二十日(金)於 東北学院大体育館

本 塾 12 — 14 全宮城

先鋒 ○橋田 紘一 背負投 松川(2)	○平川 道隆 大外刈 清水(2)	○河上 龍雄 弘腰 熊沢(2)	○森 秀雄 優勢 千葉(2)	○内海 勝彦 横四方 佐藤(2)	羽鳥 正稔 優勢 勝(2)	田中 孝弘 優勢 佐光(2)	高原 徹 優勢 高橋(2)	田中 明男 引分 土橋(3)	近藤 正士 内股 小(2)	小杉 寛治 大内返 八(2)	辻岡 寛治 優勢 近藤(3)	芳賀 孝穂 引分 小林(2)	○吉無田 健 大外刈 鈴木(2)
---------------------	------------------	-----------------	----------------	------------------	---------------	----------------	---------------	----------------	---------------	----------------	----------------	----------------	------------------

東北では随一の力量を持った全宮城に対し、のびのび

副将 野田侃生 引分 堀越(4)	○荻巢 賢二 大内返 菅原(4)	○滝沢 緑郎 背負投 阿部(4)	○庄司 利昭 引分 阿部(3)	○森田 総典 大内刈 大(3)	堀 信孝 優勢 植田(3)	長谷川 孝 引分 秋山(3)	若菜 武夫 引分 島谷(4)	朝倉 秀樹 大外刈 小野寺(3)	○手島 秀士郎 裏投 星野(3)	西村 和悦 背負投 山下(3)	○大竹 高 背負投 高野(3)	金杉 浩 引分 伊藤(3)	飯田 祥次 引分 川村(3)	青木 鶴佳 優勢 柴田(3)	宮沢 由幸 出足弘 島谷(3)	○福井 勝也 背負投 平手(2)	稲石 謙一 優勢 日下(2)	岡本 美臣 小外刈 虎川(2)	森藤 平八郎 合技 渡辺(2)
------------------	------------------	------------------	-----------------	-----------------	---------------	----------------	----------------	------------------	------------------	-----------------	-----------------	---------------	----------------	----------------	-----------------	------------------	----------------	-----------------	-----------------

と戦い中盤四点の差をつけられたものの、後半追い込んだ。しかし、非常に勝ちを急ぎ思わぬ失敗を繰り返してしまった。多勢の観衆の見守る中今一步で勝ちを逃してしまい、非常に残念であった。

対・東北学院大学

八月二十日(金)於 東北学院大体育館

先鋒	平川	引分	星	(2)
	河上	引分	宇野	(2)
	内海	優勢	大山	(2)
	高 原	横四方	佐々	(2)
	田 中(明)	大外刈	石井	(2)
	辻 岡	優勢	武田	(2)
	橋 田	引分	小山	(2)
	芳 賀	払腰	岡元	(2)
	望 月	引分	岩淵	(2)
	古無田	優勢	菅原	(2)
	森 藤	引分	柴田	(3)
	稲 石	大外刈	菅野	(3)
	福 井	合技	佐藤	(2)
	宮 沢	体落	及川	(2)

本 塾 14 — 5 東北学院大学

の活躍が目立った。全員良く戦い大勝することができた。特に中堅クラスの活躍が目立った。

対・金山形県

八月二十二日(日)於 山形県警察学校道場

先鋒	橋 田	大内刈	先鋒	柴 田	劔
	青 木	優勢		野 上	(2)
	飯 田	優勢		梅 津	(2)
	金 杉	大外刈		戸 塚	(2)
	大 竹	背負投		松 崎	(2)
	西 村	大外刈		高 橋	(2)
	手 島	引分		高 橋	(2)
	朝 倉	引分		深 瀬	(2)
	若 菜	引分		加 藤	(3)
	長谷川	内股透		菊 地	(3)
	堀 田	引分		渡 辺	(3)
	森 田	横四方		加 藤	(3)
	庄 司	大外刈		洞 口	(3)
	滝 沢	引分		松 井	(3)
	萩 巢	引分		高 橋	(3)
	副将	優勢		桜 井	(3)
	野 田	大内刈		佐 藤	(4)
	大将				
	安 藤				

本 塾 21 — 15 金山形

た。
 今回遠征初の抜試合でも大将以下七名を残し大勝利した。

対・全秋田県

八月二十三日(月)於 秋田警察署内武道館

先鋒 森 本 塾 10 | 11 全秋田

○田中(明)	○高原	岡本	田中(孝)	河上	内海	近藤	福井	平川	羽鳥	辻岡	森
弘腰	弘腰	足弘	大外刈	優勢	引分	燕返	優勢	跳腰	優勢	優勢	引分
佐藤(劔)	土屋(劔)	○田村(劔)	○工藤(劔)	○佐藤(劔)	小	○川田(劔)	○本庄(谷劔)	○佐々木(劔)	○佐藤(劔)	○佐々木(劔)	保坂(劔)

前半一年生の闘志の無い戦いぶりがたつたって、後半の

○細田(3)	○村本(3)	○島山(3)	清水(3)	進藤(3)	小笠原(3)	清水(3)	中川(3)	船木(3)	佐藤(3)	児玉(3)	藤井(3)	伊藤(3)	池田(3)	細谷(3)	永井(2)	柴田(2)	○佐々木(2)	○佐藤(2)	○小山(2)	高橋(劔)	○中川(劔)
背負投	引分	背負投	引分	内股	大外刈	引分	引分	引分	引分	引分	縦四方	優勢	優勢	引分	掬投	引分	跳腰	引分	小外刈	引分	背負投

追い込み惜しく一点差で敗れた。

対・全青森県

八月二十四日(火)於 青森県警察学校道場

先鋒	森	引分	小田桐(初)	全青森
本	塾	10	—	7
河上	引分	佐川(初)		
福井	引分	泉(初)		
橋田	引分	相馬(初)		
羽鳥	優勢	葛西(初)		
○田(中明)	大内刈	川越(初)		
高原	引分	藤谷(初)		
吉無田	引分	豊田(初)		
青木	引分	白石(初)		
○芳賀	払腰	佐々木(2)		
○金杉	縦四方	工藤(2)		
○小杉	優勢	川村(2)		
稲石	優勢	○佐々木(2)		
長谷川	支釣込足	○福井(2)		
宮沢	体落	○世永(2)		
○若菜	横四方	三好(3)		
飯田	引分	杉山(3)		

下級生の健闘が目立った。

長野・松本遠征(中等部)

中等部は初めて、長野、松本に八月二十一日から八月二十五日まで遠征を行なった。各地で練習、試合を行ない、茶話会で親交をはかったりしたが、その模様は地元の新報でも報道された。試合は三試合とも勝利を収め、長野の友だちと再会を約束して帰京した。

○堀	釣込腰	藤本(3)
○大竹	背負投	葛西(3)
○朝倉	小内刈	○福田(3)
○手島	優勢	三上(3)
○西村	合技	工藤(3)
○森田	引分	小野(3)
○庄司	合技	○石崎(3)
○滝沢	引分	工藤(4)
○萩巢	合技	寺山(4)
○副将 野田	引分	蛭名(4)
○大将 安藤	優勢	○石戸(5)
遠征最後の試合を全員闘志を持って良く戦った。特に		

中等部对全長野市中学選抜軍

八月二十二日 於 武徳殿

先鋒 ○栗原	中等部 9	大内刈 先鋒 笠井	全長野市中学選抜軍	先鋒 横山	中等部 5	先鋒 佐々木	△点取勝負 ▽	中等部 3	全長野市中学選抜軍
副將 ○大塚	引分	縦四方	小池	引分	葛田	合技	△	引分	江口
飯島	引分	今井	中村	合技	小口	優勢	○	引分	福沢
和田	合技	堺	島田	引分	小林	引分	○	引分	上原
伊藤	引分	中野	田野	合技	葛田	合技	○	引分	横山
網島	合技	笠井	野口	合技	山	合技	○	引分	福沢
栗原	合技	横山	山	合技	山	合技	○	引分	葛田
神戶	合技	上原	原	合技	山	合技	○	引分	葛田
今川	合技	葛田	山	合技	山	合技	○	引分	葛田
西沢	合技	葛田	山	合技	山	合技	○	引分	葛田
佐々木	合技	葛田	山	合技	山	合技	○	引分	葛田
横山	合技	葛田	山	合技	山	合技	○	引分	葛田
先鋒	合技	葛田	山	合技	山	合技	○	引分	葛田

大將 副將

中川	大塚	和田	和田	伊藤	飯島	網島	今井	今井	横山	神戶	佐々木	西沢	栗原									
不戦	不戦	引分	背負投	袈裟固	体落	引分	背負投	袈裟固	袈裟固	袈裟固	袈裟固	袈裟固	崩袈裟	袈裟固	痛分	小内刈	袈裟固	引分	内股	上四方	引分	
			○小池	○小池	○小池	○小池	○今井	○今井	○村岡	○小林	○中村	○堺	○上原	○葛田	○福沢	○島田	○江口	○江口	○田野	○田野	○田野	○横山

滝沢 緑郎(3) 引分
 ◎野田 侃生(3) 優勢
 西村 引分
 副将 ○手島 内股
 大将 安藤 引分
 猪森 太田 灘波 橋本 岡崎

本塾 1 — 1 立教大学

先鋒 萩巢 引分
 ○大竹 内股 淵辺
 西村 袈裟固 岡田
 野田 引分 塚越
 滝沢 引分 小島
 副将 手島 引分 小松
 大将 安藤 引分 宮本
 △代表決定戦▽
 萩巢 優勢 ◎倉泉

決勝戦まで相手校を全く問題とせず、この大会三連勝
 確実と思われたが、立教のねばりに屈した。尚、大竹式
 段は全くの好調で優秀選手賞を獲得した。

本塾対日本体育大学対抗試合

九月九日(木) 於 日本体育大学柔道場

本塾 9 — 9 日体大

先鋒 関 郁夫 引分
 河上 龍雄 引分
 ◎金杉 浩 優勢
 金杉 足弘
 芳賀 孝穂 引分
 ◎田中 明男 合技
 田中 明男 釣込腰
 田中 引分
 手島 秀士郎 引分
 小杉 寛治 引分
 宮沢 由幸 引分
 橋田 紘一 優勢
 ◎堀 信孝 背負投
 堀 引分
 吉無田 健 引分
 ◎井上 雅行 大外刈
 井上 雅行 縦四方
 ◎中村 征人 内股
 中村 征人 引分
 青木 鶴佳 浮落
 青木 鶴佳 大外刈
 ◎森田 総典 優勢
 ◎森田 総典 袈裟固
 ◎深田 緒方 引分
 ◎緒方 野本 引分
 佐野 塚本 引分
 ◎新宮 池田 引分
 ◎新宮 石井 引分
 石井 引分
 木林 引分
 ◎清水 引分
 ◎清水 引分
 田村 引分
 上水 引分
 ◎金坂 引分
 ◎金坂 引分
 森平 引分
 安藤 引分
 ◎安藤 引分
 藤谷 引分
 関 引分
 住元 引分
 日体大

西村和悦 優勢 ⊖深田
 ○長谷川 孝 崩上四方 深田
 長谷川 引分 元田
 朝倉秀樹 引分 青柳
 飯田祥次 優勢 ⊖立川
 ⊖若菜武夫 優勢 立川
 若菜 引分 岡野
 滝沢緑郎 引分 香西
 金子賢二 引分 内藤
 萩巢賢二 大内刈 副将○細田
 副将 野田侃生 引分 細田
 大将 安藤洋志 引分 大将 森本

早慶戦にそなえて二十五人抜勝負を行ったが、全員気力充分に戦い強豪日体大と引分けた。強化合宿の成果で日体大を常に守勢におい込んだ。勝てる試合を惜しくも失ったという感が深い。

第十四回神奈川県高等学校学年別柔道大会

九月十九日(日)於 平塚市見府台体育館

△三年▽

一回戦

日吉高校 2 — 0 藤沢商業高校

先鋒 ⊖後藤雅洋 優勢
 加藤陽 引分 武井和
 ○松葉直彦 崩袈裟 遠藤
 副将 宮本圭一 引分 和田
 大将 稲田新一 引分 関野

二回戦
 日吉高校 3 — 1 逗子開成高校

先鋒 ⊖後藤 優勢
 ○加藤 大外刈 牧野
 ○松葉 不戦勝 高久
 副将 宮本 引分 染谷
 大将 稲田 合技 須藤
 ○千品

三回戦
 日吉高校 3 — 0 県立横須賀工業高校

先鋒 ⊖後藤 内股 三浦
 ○加藤 縦四方 潮田
 副将 ○宮本 引分 白井
 大将 稲田 引分 大竹
 大場

四回戦
 日吉高校 3 — 2 日大高校

先鋒 後藤 弘腰 ○金子

決勝戦

加藤	優勢	○竹生
○松葉	崩袈裟	高橋
副将○宮本	優勢	伊東
大将○稲田	袈裟固	関口

日吉高校 0 — 1 日大藤沢高校

一回戦

先鋒 後藤	引分	山本
加藤	引分	細谷
松葉	体落	○川島
副将 宮本	引分	橋本
大将 稲田	引分	高見

日吉高校 2 — 1 相模原高校

一回戦

先鋒 鈴木重安	崩上四方	鈴木
○鈴木重利	背負投	河内
古屋敏郎	引分	吉田
副将 小林俊介	引分	峰尾
大将 小林寛	小外刈	○遠藤

日吉高校 4 — 0 鶴見工業高校

先鋒 鈴木(安) 崩上四方 大関

三回戦

鈴木(利)	引分	小川
○古屋	大内刈	宮下
副将○小林(俊)	優勢	中村
大将○小林(寛)	袈裟固	秋山

日吉高校 1 — 3 日大藤沢高校

一回戦

先鋒 鈴木(安)	優勢	○五十嵐
鈴木(利)	大外返	○山下
古屋	合技	○波多野
副将○小林(俊)	払腰	大場
大将 小林(寛)	引分	斉藤

日吉高校 3 — 0 平塚農業高校

二回戦

先鋒 菅原茂太	合技	升水
佐久間陽三	引分	清水
○藤原芳隆	崩上四方	朝倉
副将○河村充	上四方	秋沢
大将 西島良信	引分	小沢

日吉高校 3 — 0 川崎商業高校

先鋒 菅原 引分 松浦

○佐久間	袈裟固	青木
○藤原	上四方	原本
副将 ○河村	袈裟固	引地
大将 西島	引分	黒沢

三 回 戦 日吉高校 1 — 2 厚木高校

先鋒 菅原 袈裟固 ○長島
 佐久間 引分 黒川
 ○藤原 縦四方 下田
 副将 河村 引分 山俣
 大将 西島 支釣込足 ○清水

期末テストの前日であったにもかかわらず、どの学年のチームも良く健闘した。一年は大きな試合には初めて出場したわけだが皆、堂々としていたし、二年は準々決勝まで行った。又、両学年共に寝技で勝っている試合が非常に多いが、これは練習の成果といえよう。特にすばらしかったのは三年で、過去の不成績を一掃するような目ざましい試合であった。試合内容は、実に一人／＼が良く戦って充実した見ごたえのある試合であり、その結果として遂に二位の座を獲得した。

日吉高校対高輪高校対抗試合

十月三日(日)於 高輪高校道場

△点取勝負▽

先鋒 ○河村	剛	背負投	田村
佐久間 陽三	引分	引分	村松
○水谷直矢	優勢	優勢	佐々木
河村 充	崩上四方	崩上四方	○久保田
菅原 茂太	大外刈	大外刈	○梅田
○藤原芳隆	優勢	優勢	伊藤
那須 義久	体落	体落	○細谷
○熊谷喜隆	小内刈	小内刈	○影島
○塚本広道	大内刈	大内刈	須長
小林 俊介	優勢	優勢	新井原
山田 文治	弘巻込	弘巻込	○平林
小林 寛	合技	合技	○国上
鈴木 重安	小内刈	小内刈	○木村
鈴木 重利	引分	引分	橋本
副将 鈴木重利	引分	引分	浅野
大将 古屋敏郎	引分	引分	三尾

名門日大だけに充実したメンバーで、本塾は4-9と破れた。しかし、内容は良く、全員の調子が上っているようである。取れる相手を逃した試合が二つ、三つあったのが惜しまれる。

青木鶴佳	引分	町田
飯田祥次	引分	井上
朝倉秀樹	引分	城本
西村和悦	引分	三浦
長谷川孝	引分	高橋
堀信孝	引分	古賀
金子賢二	優勢	○福島
森田総典	引分	福島
○萩巢賢二	優勢	石井
萩巢賢二	内股	○藤野
滝沢緑郎	引分	藤野
副将 野田侃生	引分	吉田
大将 安藤洋志	優勢	○栗原
	不戦	統
	不戦	増田
	不戦	副将 古賀
	不戦	大将 鳥越

第十七回早慶對抗柔道戦

十月十七日 於 講道館

いよいよこの一年間の総決算の時が来た。公式戦では良い戦績を残すことが出来なかったが、遠征や最近のこの試合に照準を合せた強豪相手の練習試合では、気迫のこもった戦いぶりをみせ、本対抗戦での善戦が期待された。

試合は、相手に一点取られても次はいつものように続けてとられることなく、悪くても引分け、迫熱した試合展開となった。反対に大竹、西村両選手の活躍により中盤では対に持っていた。しかし後半早稲田のレギュラーが登場するとジワジワと点を取られ、逆に一点も返すことが出来ず五人を残して敗れた。

審判員	八段 大滝忠夫	八段 菊地揚二
	八段 杵淵政光	八段 細川九州男
本塾		早稲田
先鋒	芳賀孝穂(2)	引分 先鋒 中本博 大(2)
	河上龍雄(2)	引分 池畑正明(2)
	金杉浩(3)	引分 村上健(2)
	稲石謙一(3)	優勢 ○大西政一(3)

△点取勝負▽
 副将 加藤 陽 大内返 ○岡田
 大将 稲田 新 引分 岡田
 不戦 大将 富田 孝夫

日吉高校 3 — 2 志木高校
 先鋒 菊一 進 背負投 ○佐山
 水谷直矢 引分 杉下功祐
 藤原芳隆 引分 樋口寿利
 ○小林俊介 崩上四方 村上
 小林 寛劔 引分 羽鳥
 鈴木重安劔 引分 富田
 ○鈴木重利劔 背負投 豊田隆志劔
 古屋敏郎(2) 大内返 ○奥田劔
 副将 宮本圭一(2) 引分 中村(2)
 大将 ○松葉直彦(2) 優勢 岡田劔

はじめの拔勝負では、メンバーを押えた日吉高校に対し志木高校がのびのびと戦い、見事に勝った。点取でも、ベストメンバーの日吉高校に対して志木高校が善戦したが、最後の大将戦で日吉のキャプテン松葉が志木のキャプテン岡田を破り雪辱した。

第十七回全日本東西学生柔道對抗試合
 並びに全日本学生柔道選手権大会

十一月六日(土)於 大阪府立体育館

本塾より全日本柔道選手権大会に中量級に安藤洋志が
 出場したが、四人で行なうリーグ戦で二敗一分となり、
 決勝トーナメント進出と翌日の東西對抗試合への出場は
 果せなかった。

リーグ戦
 中量級

安藤 洋志 引分 ○田中(4)(関学大)
 安藤 優勢 ○平尾(天理大)
 安藤 背負投

第十三回神奈川県高等学校対抗体重別大会

十一月七日(日)於 桜ヶ丘高校体育館

△一回戦▽

日吉高校 3 — 1 横須賀高校
 先鋒 那須 義久 優勢 ○稲野
 ○山本 隆 大外刈 矢野
 岸 勇二 引分 新井
 副将 ○米山 優勢 菱倉

大将○宮本圭一 釣込腰 金子
 △二回戦▽

日吉高校 1 — 3 相洋高校

先鋒 那須 引分 大場

山本 優勢 ⊖穂坂

岸 体落 ○大井

副将 米山 内股 ○三好

大将○宮本 大外刈 鈴木

今年度最後の試合であったので皆はりきっていたが結果はおもしろくなかった。負傷のために出場できなくなった選手がいたので最初に申込んだ時のメンバーと多少変わっていた。次鋒山本は減量に苦しんだが、その結果は比較的良かった。大将宮本の健闘は素晴らしく、彼の實力をまざまざと見せつけられた試合であった。

埼玉県西部地区高校柔道大会

十一月七日(日)

四者でリーグ戦を行ない第一位になればトーナメント戦に進出できるとあって、三勝を目標に試合をすすめた。しかし川越商業に不覚をとり、二勝一敗の二位となりトーナメント戦に進出することはできなかった。

リーグ戦

志木高校 4 — 1 川越農業高校

先鋒○羽鳥順 絞技 添沢

○佐山光 縦四方 大河原

豊田隆志 優勢 ○若海

○中村晃三 内股 栗原

副将 岡田昂 絞技 杉田

大将 富田孝夫 引分 尾崎

先鋒 羽鳥 小内巻込 川越商業高校A

志木高校 1 — 3

佐山 崩上四方 ○大室

豊田 内股 ○小暮

○中村 大内刈 ○浅川

副将 岡田 引分 保坂

大将 富田 引分 三上

志木高校 5 — 2

先鋒○羽鳥 崩上四方 坂戸高校

○佐山 背負投 新井

吉村 内股 ○小室

○中村 大外刈 石原

○岡田 弘腰 高篠
 副将 奥田 袈裟固 ○岸田
 大将 富田 袈裟固 比留田

日吉高校対明治学院高校対抗試合

十二月九日(木)於 綱町道場

日吉高校 9 — 0 明治学院高校

先鋒	藤原芳隆	崩袈裟	小野寺
清水	引分	中村	金井
○佐久間	陽三	大外刈	小林
○河村	剛	袈裟固	高橋
○河村	充	引分	新野
○西島	良信	袈裟固	吉村
○那須	義久	送襟絞	神谷
○熊谷	喜隆	合技	荒井
○小林	俊介	合技	満潮
山田	文治	引分	相生
○鈴木	重安	跳腰	相生
○鈴木	重利	足弘	富岡
副将	小林寛	引分	豊田
大将	古屋敏郎	引分	沢地

日吉高校の完勝だった。とくに一本もとられなかったのはみごとだった。みんな日頃の練習の成果を発揮し、

とくに寝技において抜群の強みをみせた。そしてはじめから気力で圧倒し、気力負けしたのが一人もいなかったことがよかった。

普通部の現況

本年度から永年普通部の柔道部をみてこられた朝岡先生にかわり、新任の内藤先生が柔道部長に就任された。五月には麻布中学と対抗試合を行なったが惜敗した。六月の三中学(成城中学・成蹊中学)春季リーグ戦においては他を圧倒して優勝した。八月には三日から八日まで山中湖畔で恒例の合宿を行ない、その後に関われた神奈川県中学校柔道大会では九位になった。十一月の中等部戦では点取試合では引分であったが勝抜き試合では二人残されて敗れた。今年最後の試合になった秋季三中学戦では再び優勝した。

秋季三中学戦

普通部	7 — 0	成城中学
先鋒	鈴木(英)	石井
水谷	引分	水野
勝呂	引分	野生司

